

0.02秒の衝撃からあなたを守る「命綱」

シートベルト着用推進キャンペーン

9月1日～9月30日

命を守るのめんどろですか？……

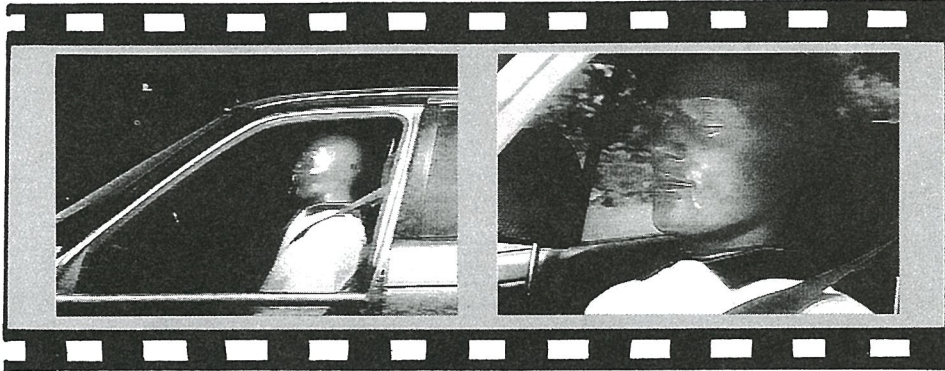
交通事故の多くは、自宅や会社の近くの生活圏内で発生しています。『ちよっとそこまで』が『ちよっとあの世まで』にならないように、いつもシートベルトを着用し、気持ちを引きしめ運転しましょう。

平成7年中、県内で自動車乗車中に交通事故で亡くなった方は206人。そのうち183人(88.8%)がシートベルトを着用していませんでした。県内の交通事故死亡事故の特徴としてシートベルトの着用率が著しく低いことがあげられます。昨年、町

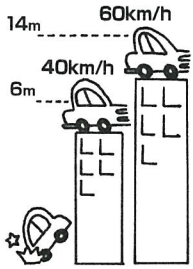
内の主要交差点で、シートベルト着用率実態調査を行ったところ結果は23.9%でした。県下平均48.9%と比較すると半分にも及びませんでした。

八日市場警察署管内では平成7年中死亡事故件数5件、6人の方が交通事故で亡くなっています。もし、シートベルトをしていたら……。

いざという時に守ってくれる『命綱』忘れないでください。



車が固定壁に衝突したときに受ける衝撃は、時速40キロメートルで車を運転していた場合、約6メートルの高さから落ちたのと同じくらいだといわれています。この衝撃力は、体重の約30倍。60キログラムの人で約1.8トンにもなります。人間が耐えることのできる衝撃力は、両腕で50キログラム、両足で100キログラム、これを衝突速度にすると、わずか時速7キロメートルで



衝撃力は時速60kmで14mの落下と同じ

す。これ以上のスピードで衝突した場合は、いくら腕力に自信がある人でも、耐えることはできないのです。
人間が受ける衝撃は、ハンドルやフロントガラスなどに、頭や体をぶつける二次衝突によって起きます。衝突すれば車は停止しますが(一次衝突)、人間は慣性で前方に移動してしまふからです。この間わずか0.02秒、人間のまばたきでさえ0.2秒かかりますのでどうすることもできません。シートベルトはこの衝撃を0.01秒で感じ、二次衝突を防いでくれます。上と下の写真を見比べれば明らかのように、シートベルト着用の有無の結果は歴然としています。

町内の着用率実態調査 (7年)

調査日	6月1・2・3日			
調査台数	2,371台			県下88カ所 平均着用率 (%)
区分	調査人数 (人)	着用人数 (人)	着用率 (%)	
運転席	2,371	586	24.7	49.9
助手席	336	62	18.4	43.1
合計	2,707	648	23.9	48.9

実施地点 橋場十字路
調査時間 午前9時～10時

